

- 問1 1859年の開港後、幕末の日本国内では生糸や米などの物価が急激に上昇し、庶民の生活が圧迫されました。このような事態を招いた直接的な原因として、当時の流通の状況を説明した文として最も適切なものはどれですか。 (2017年 大分県公立入試 類似)
- 幕府が外国との戦争に備えるため、生糸や米などの主要な物資をすべて買い上げ、輸出を禁止したため
 - 貿易商人が輸出用の商品を確保するために国内産品を買い占め、国内市場で品不足が発生したため
 - 海外から大量の金が入ったことで国内の貨幣価値が相対的に上がり、物価のバランスが崩れたため
 - 外国から安価な綿製品が大量に輸入されたことで、国内の綿織物業が衰退し生産が止まったため
- 問2 1858年に結ばれた日米修好通商条約は、日本にとって不平等な内容を含んでいました。その不平等な点についての説明として正しいものはどれですか。 (2020年 香川県公立入試 類似)
- 日本がアメリカから「最恵国待遇」を一方向的に受ける代わりに、アメリカにのみ自由な貿易拠点としての港を提供した。
 - 日本がアメリカに対して領事裁判権を行使できる一方で、アメリカ側に輸出入の関税を決定する権利を認めた。
 - 日本がアメリカ人の犯罪を日本の法律で裁く権利を確立したが、日本国内の関税をアメリカの同意なしに変更できなかった。
 - 外国人が日本で罪を犯しても日本の法律で裁けない「領事裁判権」を認め、日本に「関税自主権」がなかった。
- 問3 18世紀後半、北アメリカの13植民地がイギリス本国からの重税に対して抵抗した際に掲げた、植民地側の主張を端的に表した言葉として適切なものはどれですか。 (2025年 長野県公立入試 類似)
- 自由・平等・友愛
 - パンと平和
 - 鉄血政策
 - 代表なくして課税なし
- 問4 1858年、江戸幕府の老老である井伊直弼が、朝廷の許可（勅許）を得ないままアメリカと結んだ条約について、その内容と性質を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2025年 千葉県公立入試 類似)
- アメリカに領事裁判権を認め、日本に関税自主権がない不平等な内容であった。
 - イギリスとの軍事同盟を結び、ロシアの南下政策に対抗することを目的とした。
 - 下田と箱館の2港を開港し、アメリカ船に食料や石炭を供給することを約束した。
 - 日本が清の独立を承認し、領事裁判権を相互に認め合う対等な内容であった。
- 問5 19世紀後半のアメリカ合衆国では、貿易政策や奴隷制をめぐる国内が二分されました。この対立から発展した南北戦争の最中に、第十六代大統領として「奴隷解放宣言」を出し、最終的に北部の勝利へと導いて合衆国の統一を維持した人物は誰ですか。 (2023年 大阪府公立入試 類似)
- セオドア・ルーズベルト
 - ジョン・F・ケネディ
 - リンカン
 - ジョージ・ワシントン
- 問6 幕末から明治へと時代が移り変わるなかで確立された、天皇一代につき一つの元号を用いるという制度の名称として正しいものを選択してください。 (2026年 愛知県公立入試 類似)
- 一世一元の制
 - 公事方御定書
 - 官位十二階
 - 版籍奉還
- 問7 1854年に結ばれた日米和親条約と、1858年に結ばれた日米修好通商条約の大きな違いについて、「開国」という視点から正しく説明しているものはどれですか。 (2021年 千葉県公立入試 類似)
- 日米和親条約は長崎の1港のみに限定した「開国」であり、日米修好通商条約は全国の港を対象とした「開国」である。
 - 日米和親条約はイギリスやロシアに対抗するための「開国」であり、日米修好通商条約はアメリカ1国のみを対象とした「開国」である。
 - 日米和親条約は朝廷の許可を得た「開国」であり、日米修好通商条約は幕府が独断で行った「開国」である。
 - 日米和親条約は船の寄港を認める「開国」であり、日米修好通商条約は本格的な商業取引を認める「開国」である。
- 問8 18世紀後半のイギリスにおいて、ワットによる蒸気機関の改良などをきっかけに、手工業から機械を用いた工場での大量生産へと移行し、産業や社会の仕組みが劇的に変化した出来事を何というか、名称を答えなさい。 (2017年 佐賀県公立入試 類似)
- 宗教改革
 - 産業革命
 - 農業革命
 - 市民革命
- 問9 1860年代の日本の貿易状況をまとめた資料によると、輸出額の約8割を特定の品目が占める一方で、貿易開始後の物価指数は急激な右肩上がりの傾向を示しています。この資料が示している当時の経済状況の説明として、正しい用語の組み合わせを選びなさい。 (2024年 佐賀県公立入試 類似)
- 主力輸出品：生糸、発生した現象：物価騰貴
 - 主力輸出品：綿織物、発生した現象：物価騰貴
 - 主力輸出品：茶、現象：殖産興業
 - 主力輸出品：生糸、発生した現象：デフレーション
- 問10 1860年代の横浜港における貿易品目の特徴と、当時の貿易収支の状況について説明した文として、正しいものはどれですか。なお、当時の横浜港では、ある品目が輸出の65.1%を占め、別の品目が輸入の52.8%を占めていました。 (2017年 香川県公立入試 類似)
- 輸出品は生糸、輸入品は綿織物が中心であり、輸入額が輸出額を上回る輸入超過の状態であった。
 - 輸出品は生糸、輸入品は綿織物が中心であり、輸出額が輸入額を上回る輸出超過の状態であった。
 - 輸出品は茶、輸入品は武器が中心であり、輸入額が輸出額を上回る輸入超過の状態であった。
 - 輸出品は綿織物、輸入品は生糸が中心であり、輸出額が輸入額を上回る輸出超過の状態であった。
- 問11 幕末の社会混乱を描いた資料の中には、人々が「ええじゃないか」と唱えながら町々を熱狂的に踊り歩く姿が記録されています。この騒動の背景と特徴について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2026年 千葉県公立入試 類似)
- 社会の仕組みの変革を求める民衆の期待と、先行きの見えない不安が入り混じった世直しの動きの一つであった。
 - 明治政府が推進した文明開化の政策を歓迎し、新しい文化を受け入れるために民衆が自発的に始めた祝祭であった。
 - 廃藩置県によって自分の領地がなくなることに反対した武士たちが、農民を扇動して起こした政治的な反乱であった。
 - 鎖国体制を維持しようとする江戸幕府を支持するために、都市の住民が攘夷の決意を固める目的で行ったデモ活動であった。
- 問12 1858年の条約締結後に本格的な貿易が始まると、日本の社会経済には大きな変化が生じました。当時の貿易の状況を説明した文として正しいものを選んでください。 (2026年 京都府公立入試 類似)
- 神戸が最大の貿易港となり、鉄鋼が最大の輸入商品であった
 - 横浜が最大の貿易港となり、生糸が最大の輸出商品であった
 - 長崎が最大の貿易港となり、茶が最大の輸入商品であった
 - 函館が最大の貿易港となり、綿織物が最大の輸出商品であった
- 問13 19世紀半ば、イギリスから清（中国）へ大量のアヘンが密輸出されていたことを発端として、清がアヘンの取り締まりを強化したことで発生した戦争は何か、次の中から選びなさい。 (2026年 栃木県公立入試 類似)
- 義和団事件
 - 日清戦争
 - 太平天国の乱
 - アヘン戦争

答え合わせ・解説

問1	答え 2 貿易商人が輸出用の商品を確保するために国内産品を買い占め、国内市場で品不足が発生したため	開港によって自由な貿易が始まると、海外で需要の高い生糸や、人々の生活に欠かせない米などが輸出に回されるようになりました。特に、利益を狙った貿易商人たちがこれらの商品を国内で買い占めて輸出したため、日本国内の市場に出回る量が極端に少なくなる「品不足」の状態に陥りました。需要に対して供給が追いつかなくなったことで物価が跳ね上がり、都市部の住民や農民の生活は非常に苦しくなりました。
問2	答え 4 外国人が日本で罪を犯しても日本の法律で裁けない「領事裁判権」を認め、日本に「関税自主権」がなかった。	この条約では、日本国内で罪を犯した外国人をその国の領事が裁く「領事裁判権（治外法権）」を認めさせられ、さらに日本側が輸入品にかかる税率を自主的に決める「関税自主権」が認められていませんでした。これらの条項の改正は、明治政府の長年の課題となりました。
問3	答え 4 代表なくして課税なし	イギリス本国は七年戦争などの戦費を補うため、本国の議会に代表を送る権利を植民地側に認めないまま、印紙法や茶法などの新たな税を次々と課しました。これに対して植民地の人々は、自分たちの代表が参加していない議会で決定された課税には従えないとして強く反発し、独立戦争へと発展するきっかけとなりました。
問4	答え 1 アメリカに領事裁判権を認め、日本に関税自主権がない不平等な内容であった。	日米修好通商条約は、貿易を開始するために結ばれた条約ですが、日本に在留する外国人が罪を犯しても日本の法律で裁けない「領事裁判権（治外法権）」を認め、輸入品の関税率を自国で決める「関税自主権」が日本にないなど、日本にとって不利な不平等条約でした。井伊直弼が勅許を得ずに調印したことは、後の尊王攘夷運動を激化させる要因となりました。
問5	答え 3 リンカン	アメリカ合衆国第十六代大統領であるリンカンは、1861年に始まった南北戦争において、戦況を有利にするため、また戦争の目的を人道的正義に結びつけるために1863年に奴隷解放宣言を行いました。これにより国内外の支持を集め、工業化が進んでいた北部の勝利と、国家の分裂回避に大きく貢献しました。
問6	答え 1 一世一元の制	明治政府は、それまで災害や慶事があるたびに変えられていた元号を、天皇の在位期間中は一つに固定する制度を定めました。これにより、元号が時代を区切る象徴となり、現在の「令和」に続く日本の元号制度の基盤が作られました。
問7	答え 4 日米和親条約は船の寄港を認める「開国」であり、日米修好通商条約は本格的な商業取引を認める「開国」である。	日米和親条約と日米修好通商条約の目的の違いを整理する必要があります。ペリーの要求によって結ばれた日米和親条約は、あくまで薪水（燃料）や食料の補給、遭難船の救助を目的としたものであり、貿易を許可するものではありませんでした。これに対し、のちにハリスとの間で結ばれた日米修好通商条約は、貿易を行うためのルール（関税や裁判権）を定めた本格的な通商条約です。どちらも「開国」に関連しますが、その段階的な深化を理解することが重要です。
問8	答え 2 産業革命	18世紀後半のイギリスでは、石炭を燃料とする蒸気機関が動力源として実用化されたことで、綿織物工業を中心に機械化が進みました。この技術革新は、単なる技術の進歩に留まらず、社会の構造を根本から変える大きな転換点となりました。
問9	答え 1 主力輸出品：生糸、発生した現象：物価騰貴	幕末の貿易では、生糸が圧倒的なシェアを持つ輸出品でした。この生糸の流出と、金銀の交換比率の差を利用した金の流出、さらには幕府による貨幣の改鑄などが重なり、激しいインフレーション（物価騰貴）が発生しました。この経済的混乱は、生活に苦しむ人々による「世直し」を求める一揆や、外国人への排斥運動である「攘夷」の動きを加速させる要因となりました。
問10	答え 2 輸出品は生糸、輸入品は綿織物が中心であり、輸出額が輸入額を上回る輸出超過の状態であった。	幕末の貿易において、日本の最大の輸出品は生糸であり、次いで茶などが挙げられます。一方で輸入品は綿織物や毛織物といった衣類原料が中心でした。1860年から1867年にかけての輸出入額の推移を見ると、一貫して日本の輸出額が輸入額を上回っており、この状態を輸出超過と呼びます。この貿易構造は、国内の物資不足や物価高騰を招く一因ともなりました。
問11	答え 1 社会の仕組みの変革を求める民衆の期待と、先行きの見えない不安が入り混じった世直しの動きの一つであった。	「ええじゃないか」の騒動は、幕府の権威が衰え、新しい時代への転換期であった1867年頃に発生しました。これは民衆の間で高まっていた「世直し」への渴望や、現実の苦難から逃れようとする熱狂的な心理が結びついた現象であり、幕末の社会的な混乱をさらに加速させる要因となりました。
問12	答え 2 横浜が最大の貿易港となり、生糸が最大の輸出品であった	日米修好通商条約によって開港された港のうち、江戸に近い横浜が貿易の最大の中心地となりました。輸出の主力は生糸や茶であり、特に生糸は欧米での需要が高く、日本の輸出額の大部分を占めました。一方、輸入では毛織物や綿織物などが多く入ってきました。
問13	答え 4 アヘン戦争	イギリスは自国の貿易赤字を解消するために、植民地のインドで生産させたアヘンを清へ密輸していました。清が国民の健康被害や銀の流出を防ぐためにこのアヘンを厳しく没収・処分したことで、イギリスが軍艦を派遣し、武力衝突に発展しました。